

図書室だより

令和2年度 5月



新しく入った本

皆さんこんにちは。思いのほか休校期間が長くなりました。皆さんの心身の調子はいかがでしょう。

家でできるストレッチ、トレーニングをしている人もいますが「ソーシャル・ディスタンス＝社会的な人との距離を保つこと」を守って、ときには初夏の新緑も見るともよい気分転換になりますよ。

今回は、新しく入った本についていつもより多く紹介します。気になる本の紹介を読んだら、図書室にどうぞ。なお開室日・開室時間は決定次第お知らせします。



「バスケの神様 揉めない部活のはじめ方」 木崎菜菜恵 著

一生懸命がんばることは、すばらしいこと。でも、時にはそれゆえ周りから疎まれてしまうこともあります。主人公の郁は、中学時代にそんな経験をしてしまった高校生。高校ではもう部活には入らない、と心に決めてしまいました。しかし、見る人は見えています。郁の中学時代のプレイを見ていたバスケットボール部の部長は、しきりに郁に入部を勧めます。熱心さに負けた郁は、再びバスケットボールの世界へ飛び込んでゆきます。

「レンタルなんもしない人のなんもしなかった話」

レンタルなんもしない人 著

「レンタルなんもしない人」という人がいます。いや、「サービス業」のあり方です。

彼が掲げた【利用規約】によると、「一人で入りにくい店、ゲームの人数あわせ、花見の場所とりなど、ただ一人分の人間の存在だけが必要なシーンでご利用ください。(以下略)」とあります。依頼者からいただくお金は国分寺駅からの交通費と飲食代だけ。自分を「貸し出し」する不思議な「産業」を始めた男性の話です。さて、どんな人が、どんな理由で依頼をするのでしょうか。



「鉄のしづきがはねる」 まはら三桃 著

変わってこちらは「ものづくり」。「工業高校」といえば、圧倒的に男子生徒の数が多いでしょう。実際に春日井工業高校に見学に行ったとき、皆さんつなぎの作業着を着て、きびきびやっていました。そして、校内に女子トイレは一つだけでした。

主人公の三郷心(みさと しん、女子です)は北九州のとある工業高校生。本当はコンピューター制御の生産に興味があるのに、まんまと昔ながらの手作業工程を手伝うことにはめられてしまいます。しづしづやるうちに祖父から継いだ「ものづくりの血」が呼び覚ま

されて…。これまでの高校入試で、国語の問題文にもよく選ばれている作品です。



「宝くじで1億円当たった人の末路」 鈴木信行 著

センセーショナルなタイトルですが、どちらかというと「宝くじで1億円当たった人」以外の「末路」の方が多く書かれている本です。「友だちゼロの人の末路」「疲れた。海辺の町でのんびり暮らしたいと思った人の末路」「グロイ漫画が好きな人の末路」など。

「末路」というとよくない話ばかりのように感じますが、中には「日本一顧客思いのクリーニング店の末路」というものもあり、今の世の中、このお店の行っているサービスのこまやかさに驚くばかりです。

宝くじで
1億円
当たった人の
末路
鈴木信行



「言葉はなぜ生まれたのか」 岡ノ谷一夫 著 石森愛彦 絵



小さいころから動物が大好き。ヤドカリ、ヤギ、ハムスター、シマリスなどを飼育するうちにふと感じた疑問。「なぜ動物は言葉を話せないのだろう？」

筆者は子どものころに感じた疑問が原動力になって、鳥の聴覚に関する研究者となりました。

身近で分かりやすいことばづかいの解説、ふりがな付きの漢字、美しく楽しいたくさんカラー挿し絵、「本を読んでみたいけれど、難しいものはいやだな」と思っている人にも読みやすい内容です。

「日常にひそむうつくしい数学」 富島佑允 著

草や木の葉は実にさまざまな形をしていますね。それらの形はどうやって決まるのでしょうか。13年・17年ごとにしか出てこないセミがいるのだそうです。なぜそんなサイクルで生まれるのでしょうか。同じ両親から生まれたきょうだいなのに、なぜ顔や性格が違うのでしょうか。

自然界から人間が創造したものまで身の回りにある様々な「不思議」「うつくしい」「おもしろい」ものの謎。そこには隠された法則があって数学を使って解き明かせるのだそうです。数学の問題が苦手な人も安心して読めます。



本の虫 このコーナーは、すでに蔵書されているものからおすすめの図書を選び、紹介しています。



一人で勉強をしているとふと湧いてくる疑問はありませんか。

「数学を勉強する必要があるのか」「英語は話せたほうがいいのか」と。

著名な脳科学者である茂木健一郎さんの本を読んでみませんか。

「どうすれば頭がよくなりますか？ 13歳からの進路脳」

茂木健一郎 著

「勉強するということはアルデンテになることだ」という茂木さん。おいしいパスタのゆで加減が「アルデンテ」ですが、これはどんなことをたとえているのでしょうか。

茂木さんに寄せられた、600人の中学生からの質問に答える形で書かれています。

日ごろのややもやした疑問を打ち砕く「知性あるパンチ」を感じてみてください。

どうすれば
頭がよくなりますか？
13歳からの進路脳

茂木健一郎 著